



まんだらげ

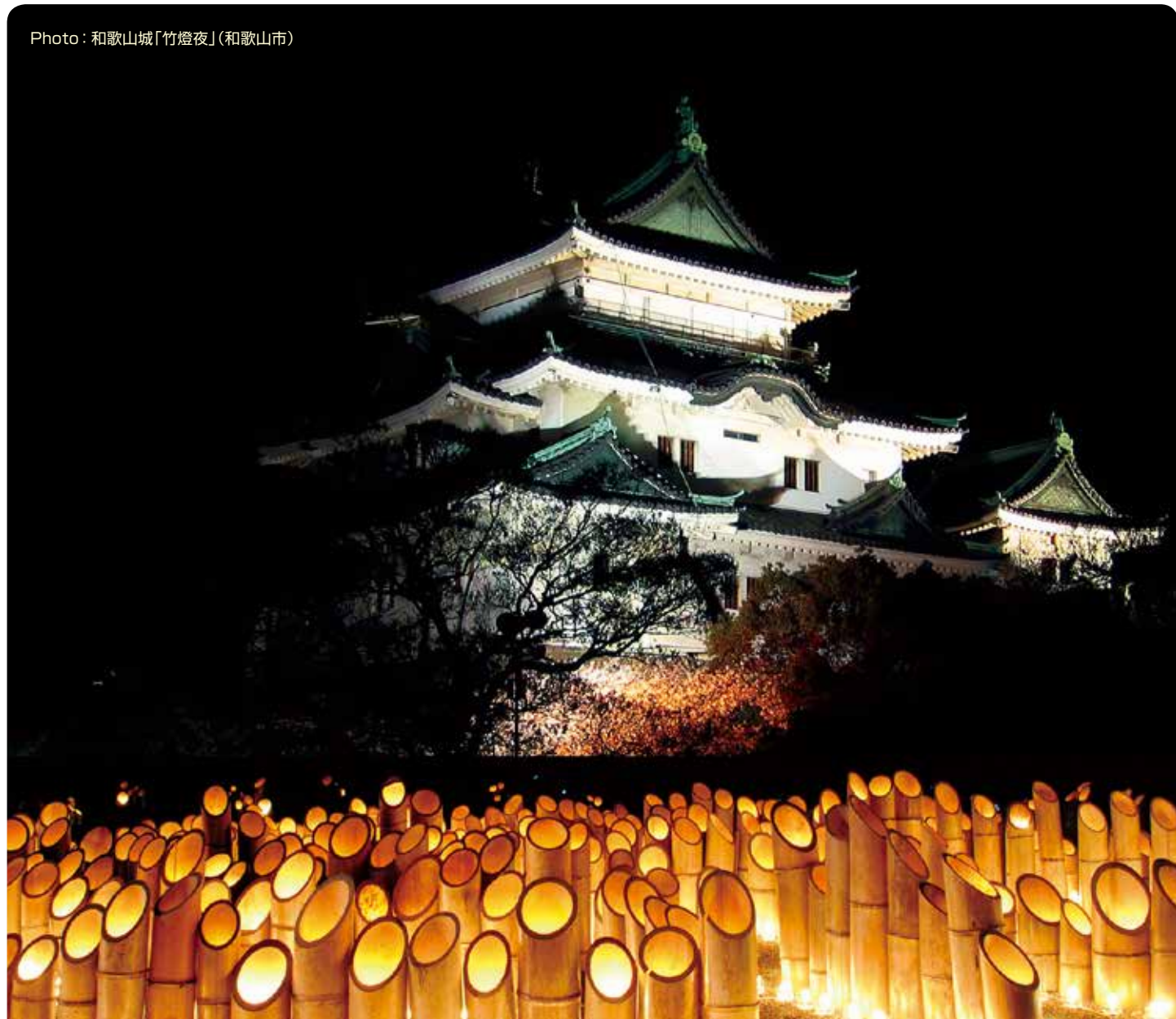
Vol.34

2015 AUTUMN

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

Photo: 和歌山城「竹燈夜」(和歌山市)



Contents

特集 / 形成外科を開設、診療開始
患者満足度調査の結果について
診療科紹介 / 神経精神科・整形外科
お知らせ / 掲示板

理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のこもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめその成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

形成外科を開設 診療開始

外傷や手術による傷痕、また先天性異常などを修復する形成外科を今年7月に開設しました。県内には形成外科のある総合病院や専門医が少なかったことから、今後地元で幅広い治療が行えることに期待が寄せられています。

見た目を美しく整えて、心と性格が前向きに

形成外科とは、生まれつきや加齢、事故及び手術等により生じた異常や変形を、機能面のみならず外見面上においてもより美しく修復する治療を提供する外科です。県内には形成外科を標榜する総合病院が1施設のみと少なく、当院での開設を求める声が寄せられていました。そこで、本年7月に形成外科を開設し、診療を開始しました。

同月17日に行われた記者発表で、形成外科学教室の初代教授となる朝村真一教授は「形成外科は、体に生じた組織の異常や変形、欠損に対してあらゆる手法を駆使し、患者さんの生活の質の向上に貢献します。すなわち、整容面と機能面において良好な社会復帰を提供する外科です。直接命に関わらない傷跡でも、見た目を美しく整えることは、心と性格を前向きに変

えることにつながります。これは、悩みを抱える患者さんにとって、命と同じくらい大切であると考えています。」と話しました。

また、吉田病院長は「県内に専門科が増えたことで、適切な治療が地元で受けることができるようになり、患者さんの通院負担が減ります。また、形成外科を志望する学生の将来のニーズに応えられるという利点もあります。」と述べました。

当院の形成外科開設により、県内において形成外科を標榜する総合病院が2施設となり、専門医が5名から7名となりました。対応する主な疾患は下表のとおりですが、様々な診療科と連携し、質の高い医療を提供していきます。



記者の質疑に答える吉田病院長



形成外科について解説する朝村教授

取り扱っている主な疾患

外傷	顔のけが(顔面骨の骨折など) 手足の外傷・切断指、咬傷 熱傷(やけど) 外傷後・手術後の傷痕
腫瘍	皮膚のできもの、皮膚癌 母斑(ほくろ・あざ・しみ) 血管腫(赤あざ) ケロイド 肥厚性瘢痕(盛り上がった傷痕) 褥瘡(床ずれ) 難治性潰瘍(足の潰瘍・壊死など)
先天異常	顔面裂、唇裂、口蓋裂 小耳症などの顔面奇形 多指症・合指症等の手足の奇形 臍ヘルニア(でべそ)
その他	腋臭症(わきが)、陥入爪(巻き爪) 眼瞼下垂症、睫毛内反症(逆まつげ) 鼻涙管損傷 乳房再建、女性化乳房、陥没乳頭 頭頸部癌後の再建、顔面神経麻痺 ペースメーカー挿入後の合併症

就任挨拶

私は今年7月1日付で、形成外科学講座の初代教授として就任いたしました。平成7年に久留米大学を卒業した後、近畿大学医学部附属病院に約20年間在任し、この度、紀州の地へやって参りました。景勝和歌浦に抱かれた和歌山は、私の故郷である佐世保と青春を謳歌した久留米をミックスしたような町並みで、格別の思いがあります。

私はこれまで、先天性体表異常、顔面・四肢の外傷症例や腫瘍切除後の組織欠損症例に対して、機能・形態の再建手術を積極的に取り入れ、様々な診療科と積極的に連携し治療を行って参りました。都道府県がん診療連携拠点病院として高度で先進的ながん診療に注力している和歌山県立医科大学附属病院において



形成外科
教授 朝村 真一

も、私は医療技術の向上に貢献し、患者さんに、より質の高い医療を提供できるよう頑張る所存です。

形成外科は患者さんの社会復帰を提供する外科、すなわち患者さんの“心”を変える科です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

経歴

平成7年3月	久留米大学医学部医学科	卒業
平成7年4月	近畿大学医学部附属病院	研修医
平成9年4月	近畿大学大学院医学研究科	入学
平成13年3月	近畿大学大学院医学研究科	修了
平成12年9月 平成14年3月	Northeastern Ohio Universities College of Medicine (米国)	留学
平成14年4月	近畿大学医学部附属病院	講師
平成15年4月	近畿大学医学部形成外科	講師
平成20年7月	近畿大学医学部形成外科	准教授
平成27年7月	和歌山県立医科大学形成外科	教授

最新技術を用いた、形成外科の主な治療法

当院の形成外科の診療の専門分野には、傷痕の修正、頭蓋顎顔面外科(顔面骨骨折など)、がん切除後の再建外科(頭頸部がん、乳がんなど)、眼形成外科(眼瞼下垂症など)、血管腫・血管奇形治療などがあります。

主な治療法として、縫合術、植皮術、皮弁術、マイクロサージェリーなどが用いられます。マイクロサージェリーは顕微鏡下に行う血管吻合・神経縫合術です。1ミリ以下の微小な血管吻合の場合でも、顕微鏡下に6~8針をかけて移植組織の血流を確保する技術を用いた高度な治療法であるため、さまざまな外傷や腫瘍などの疾患の修正や再建が可能となりました。

吉田病院長は「例えば乳がんで摘出した乳房の再建など、形成外科がほかの科と連携して患者さんの

希望に適切に応えるなど、総合病院ならではの幅の広い治療を提供していければ」と話します。



マイクロサージェリー



顕微鏡下での血管吻合術

患者満足度調査の結果について

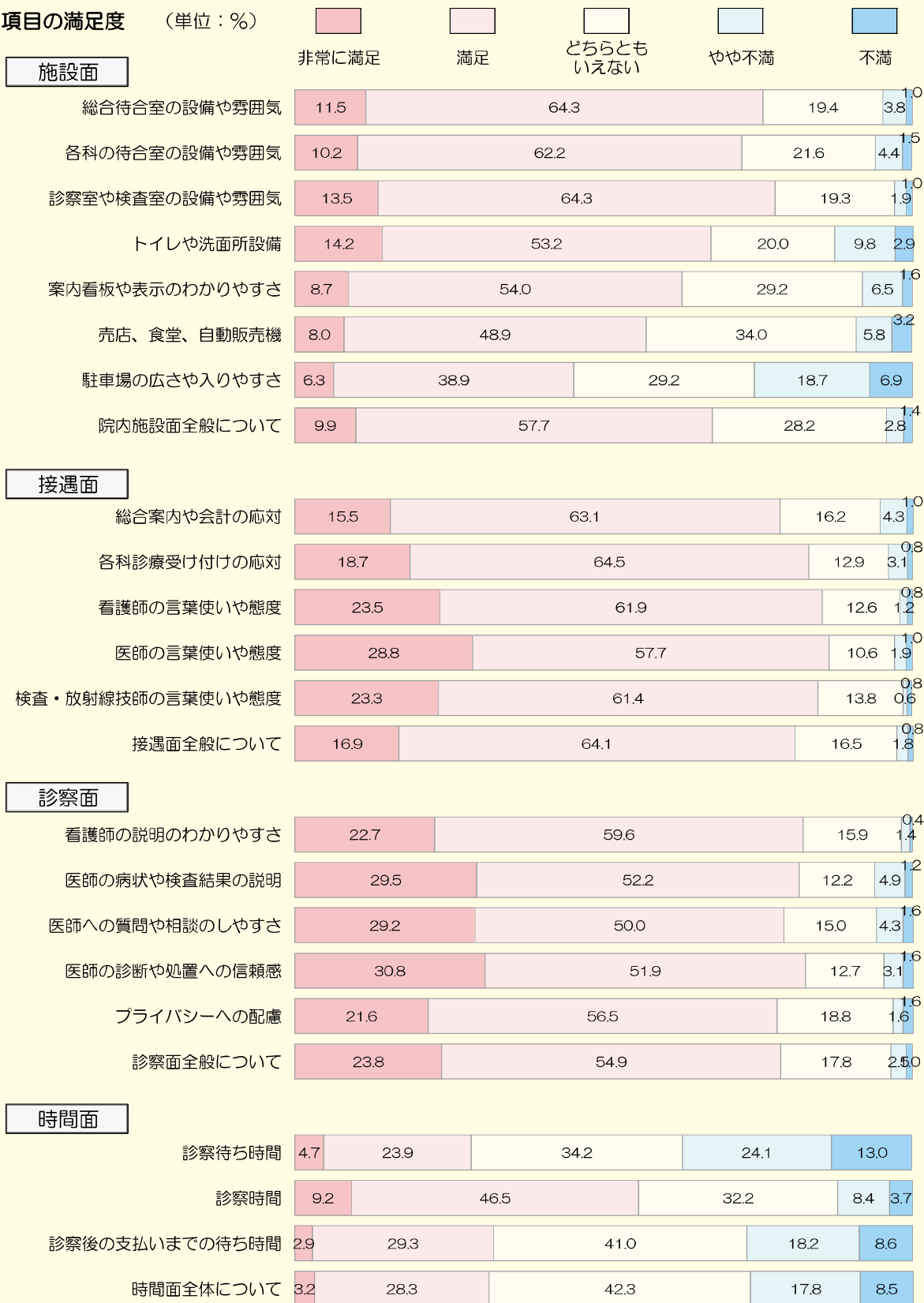
外来部門

平均年齢 61.3歳

平均待ち時間 50.1分

平均評価点 79.5点

■個別項目の満足度 (単位：%)



医療サービス向上に役立てることを目的として、平成27年1月28日に「患者満足度調査」を実施しましたのでここにその結果の概要を掲載いたします。

患者さんからいただいた貴重なご意見をもとに、今後も医療サービス向上に取り組んでまいります。

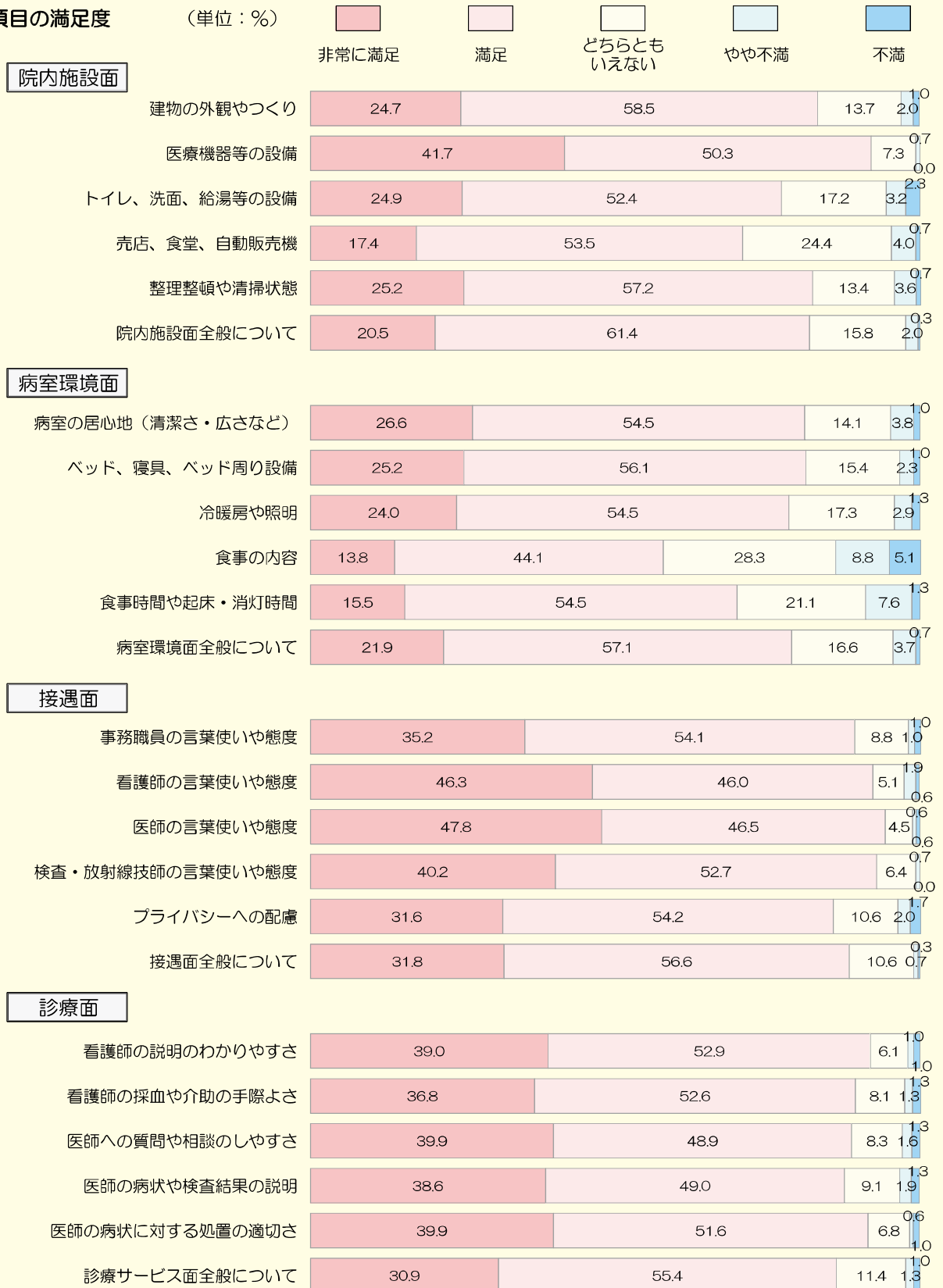
入院部門

平均年齢 62.7歳

平均評価点 87.3点

■個別項目の満足度

(単位：%)





診療科紹介

神経精神科

うつ病や認知症の方が増えています。

教授: 篠崎和弘

国内のうつ病の方は250万人、認知症の方は440万人といわれるほど、ありふれた病気で、いつでも自分の家族に起こってもおかしくないものです。

うつ病はこじらせると休職に到ります。当科では、和歌山市の「かかりつけ医との連携(GPネット)」に参加し、早期の治療開始を目指しています。また、うつ病の方の復職支援のために、認知行動療法を取り入れた医療リワークを開始しました。

また、脳神経外科、神経内科と協力し、認知症疾患医療センターを運営しており、認知症の診断、治療方針の決定後、かかりつけ医にバトンタッチしています。



確かに認知症の多くは治すことが困難ですが、原因疾患のそれぞれの症状に特徴があることを知っている、余裕を持って介護ができます。

他の新しい活動としては、がん患者さんの緩和ケアチーム、修正型電気けいれん療法、クロザリル治療登録施設などがあります。またうつ病の磁気刺激治療、光トポグラフィーも検討中です。

和歌山県内の病院に勤務する精神科医師数は全国平均より約2割少なく、当院も例外ではありません。スタッフの少なさをチームワークで補っています。ご支援をお願いします。

整形外科

低侵襲脊椎外科手術を中心としたトータルな整形外科治療を目指して

教授: 吉田宗人

整形外科教室は、昭和24年の開講以来、整形外科に関する診療、研究と医師の教育に携わり、すでに66年を経過しました。現在は超高齢化社会の中において国民の自覚症状トップ5にランクインする腰痛、肩凝り、関節炎をはじめ多くの運動器疾患の治療にあたっています。

平成10年以降は脊椎内視鏡の導入に始まり、その開発、普及を行ってきました。内視鏡脊椎手術では指導的立場で技術革新を続け、国内最高水準の手術数を誇ります。これまでも、脊椎内視鏡手術を求めて全国各地から患者さんや、技術習得を志す整形外科医を数多く受け入れてきました。アジア諸国からの短期留学生も50名を超えます。また内視鏡手術だけでなく、脊柱変形や脊柱再建手術などにも力を入れ、脊椎手術における全国有数の病院として知られるようになってきました。さらに股関節、膝関節を中心とした人



工関節や靭帯再建、スポーツ傷害、手の外科やマイクロサージェリー、骨軟部腫瘍、骨粗鬆症や関節リウマチといった幅広い整形外科分野をカバーすべく専門医を養成しています。

また、臨床のみならず脊椎疾患の疫学調査や電気生理学的診断をはじめとした基礎研究にも力を入れています。

和歌山県下の主要な病院にも数多くの整形外科医を派遣し、地域医療にも力を入れております。最近では地域の整形外科を受診する患者さんが多いことから派遣依頼は後を絶たず、慢性的な人手不足が続いています。しかし、志のある若い整形外科医も入局しておりますので、今後も教室一丸となって頑張っていきたいと思っております。

産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞

この表彰は、厚生労働大臣が都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域のお産を支え、産科医療の推進に貢献してきた個人や団体の功績をたたえるものです。

南准教授は、当院において正常分娩と共にハイリスク妊娠及びハイリスク分娩も数多く担当し、周産期医療の中心となって診療に携わっています。また、院外においても、平成19年度より和歌山医療圏における周産期医療ネットワーク協議会を主宰し、地域の周産期医療に大きく貢献しています。

9月10日に開催された表彰式では受賞者を代表し、「約10年前、分娩施設が大幅に減少した際、診療

所の先生方と協力し、周産期医療を維持してまいりました。しかし、高齢化と地域偏在のため産婦人科医師不足の状況は続いています。現在、産婦人科を志す者の6割以上が女性であるため、女性医師の就労継続を支援し、和歌山県における周産期医療の体制を維持できるように、努力を続けたい。」と謝辞を述べました。



総合周産期母子医療センター
准教授 南佐和子

認定看護師試験合格者紹介 ～救急看護の紹介と認定看護師の役割について～

救急看護の現場である救急外来には、突然発症した病気や怪我、慢性疾患の急性増悪、薬物中毒など多種多様な患者さんが運ばれてきます。そのような患者さんに対して、迅速に診療と看護が受けられるよう、私たちは日々チーム医療を提供し、看護実践に取り組んでいます。

私は救急外来での経験をおして、患者さん、上司、先輩などから様々なことを教えて頂きました。反省や課題もたくさんあります。しかし、何よりやりがいを感じています。救急看護では、患者さんの生命を守ることはもちろんですが、身体的、心理的、社会的視点を

も考えた看護の視点を持って関わることも大切となります。今回、より良い救急看護実践を追求したいと思い、救急看護認定看護師の資格を取得しました。

救急外来を受診する患者さんやご家族の危機を救い、安全で安心できる医療を提供できるように、スタッフと共に力を発揮していきたいと思えます。



HCU（救急外来）
救急看護分野認定看護師
岩本昌規

インフルエンザを予防しましょう 感染制御部 次長 赤松 啓一郎

今年もインフルエンザの季節がやってきます。例年は年明けから流行することが多いのですが、昨シーズン(2014-2015)は、年末より大流行し、和歌山市では3年ぶりにインフルエンザ流行警報が発令されました。

インフルエンザにかからないためには予防が重要で、流行前のワクチン接種はかかった場合の重症化予防に有効と報告されています。今年から3価(A型2株+B型1株)から4価(A型2株+B型2株)に変更となり、有効性の向上が期待されます。外出後の手洗いは、手指など体に付着したインフルエンザウイルス

を物理的に除去するために有効な方法であり、インフルエンザに限らず感染予防の基本です。また、咳(せき)や痰(たん)があるときにマスクを着用することは咳エチケットといって、これも感染予防の基本です。ワクチン接種、手洗い、マスクの着用によりインフルエンザを予防しましょう。

なお、毎年、面会の方の持ち込みにより入院患者さんがインフルエンザにかかってしまう事例がみられます。インフルエンザ流行中は面会などを控えていただきますようご協力お願いいたします。

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて地域連携室にFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

地域連携室

FAX番号: 073-441-0805
受付時間: 月～金 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※毎週金曜日は試行的に18:00まで受付しています。

■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約センター

電話番号: 073-441-0489
受付時間: 月～金 8:30～16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

看護師・助産師募集中

※募集等詳細につきましては当大学ホームページをご覧ください。
または下記までお問い合わせください。

和歌山県立医科大学附属病院では看護師・助産師を募集しています。

TEL 073-441-0711 (事務局総務課)
<http://www.wakayama-med.ac.jp>
公立大学法人和歌山県立医科大学 和歌山市紀三井寺811-1

病院ボランティア募集

みなさまの温かいお力をお待ちしております。

外来または病棟で、患者さんが安心して治療を受けることができるようボランティアの方を募集しています。

活動時間
外来①: 8時50分～11時30分
外来②: 11時50分～14時50分
病棟: 病棟と調整の上決定します。
(活動時間はいずれも調整可能です。)

※対象: 平日に活動して下さる18歳以上の方
詳細はお問い合わせください。

問い合わせ先
和歌山県立医科大学附属病院
代表: 073-447-2300
医事課 ボランティア担当

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようになるため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。